

2021年03月15日 3面

文字サイズ 小 中 大 [ブックマーク](#)  [印刷](#) 

前田道路ら／建機搭載型出来形管理システムが i - C o n 大賞優秀賞受賞

前田道路と法政大学、三菱電機エンジニアリング（東京都千代田区、永友秀明社長）の3社が共同開発した「建機搭載型出来形管理システム」が、国土交通省の「令和2年度 i - C o n s t r u c t i o n 大賞」で優秀賞を受賞した。舗装工事の中間工程である、路床工や路盤工の仕上がり面の形状を、建機に搭載したレーザースキャナーで計測し、点群データをリアルタイム処理して出来形管理できるシステム。作業効率の大幅な向上が期待できる。

直轄工事の現場に試行導入し、実用性や有効性を確認した。クラウドサーバーを活用して計測結果を共有することで、発注者が現地に行かずに遠隔臨場することも可能という。今後は現場導入を推進してハードとソフトの両面で信頼性を高める。

システムは2019年ごろ開発に着手。国交省のP R I S M 施策「建設現場の生産性を飛躍的に向上するための革新的技術の導入・活用に関するプロジェクト」に選定された。

5日に i - C o n 大賞の授賞式がオンラインで開かれ、前田道路工事業本部工事技術部 I C T 推進課の加藤康弘課長、法政大デザイン工学部都市環境デザイン工学科の今井龍一教授、三菱電機エンジニアリングメディアシステム事業所の平謙二副事業所長らが出席した。

受賞に当たり、加藤課長は「業界が活気づく技術を共同開発できてうれしい」、今井教授は「産学官によるプロジェクトができ、日本の科学技術の好事例になる」、平副事業所長は「メーカーとして、I C T（情報通信技術）施工に幅広く展開されるようにしたい」とコメントした。

記事ID : 3202103150311

Copyright(C) 日刊建設工業新聞 記事の無断転用を禁じます